

2014年11月入職

いたばしなおこ
板橋直子

全ての患者さまに対して、フェアでありたい

3年かけて、信頼関係を構築

私はもともと内科病棟に勤務していて、透析の専門ではありませんでした。透析に関心を持ったきっかけは、糖尿病性腎症の患者さまに教育入院を勧める際に教科書通りの説明しかできなかったことです。具体的な指導を行ったり、辛い思いに寄り添ったりできなかったことが心残りで、転職するタイミングで透析にチャレンジしました。

透析は患者さまと長いお付き合いになるので、長期的に信頼関係を築くことができます。これまで接してきた患者さまの中には、出会った当初はあまり話ができない方もいらっしゃいました。自分の症状に対してナーバスになっていると、昨日今日担当したスタッフに内情を話したくない気持ちは理解できます。

無理に距離を縮めるのは逆効果なので、状況次第では別のスタッフに担当を任せることもあります。しかし、全ての患者さまと心を通じ合わせたいという思いはありますし、看護師としてどんな症状にも対応できる力を身につけたい。その思いを胸にアプローチを続けていると、徐々に世間話を交わすようになり、やがて心を開いていただけるケースは少なくないのです。そこに至るまでに初対面から3年くらいかかることもありますが、時間を要するからこそ、信頼関係は容易には揺らぎません。

信頼関係があっても、特別扱いはしない



時間を要する分だけ患者さまとの関係性は深くなりますが、その一方で、今日初めてクリニックを訪問する患者さまもいらっしゃいます。初対面の患者さまからすると、看護師が特定の患者さまと仲良くしている姿を見るのはあまり気持ちいいものではありません。信頼関係は大切にしていますが、特定の患者さまを特別扱いするのではなく、全ての患者さまに対して公平かつ誠実に接することを大切にしています。

お付き合いの長い患者さまが「自分を一番に考えてほしい」と思われる気持ちは分かりますが、状況的に難しいときはその旨を伝えて納得してもらおうようにしていますし、ときにはまわりのスタッフにもサポートしてもらいながら、クリニック全体のバランスを取っています。一人ひとりに寄り添いながらも、第三者から見てもフェアに感じられるクリニックが私にとっての理想です。



私と関わる全ての患者さまに
笑顔と信頼を与えられるような
看護師を目指します。

板橋直子